|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 第1部　公共の扉　　２章　公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 | | |
|  | ４　他者と共に生きる倫理 | 教科書  p.32～33 | 年　　　月　　　日 |

**年　　　組　　　番／名前**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

□学習課題

Q：私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

（1）社会の格差を生む要因にはどのようなものがあるか。

（2）すべての人が能力を発揮できる社会にするには何が必要か。

（3）互いの立場を理解するためにどんな工夫ができるか。

●公平な社会とは

• 人類は、すべての人々が平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。

• 17世紀以降のヨーロッパでは、理性に基づき人を教え導こうとする①　　啓蒙運動　　が展開。

　▶人は生まれながらに②　 平等 　であるという普遍的な価値観が生まれた。

●平等と公正をめぐる現代の議論

• 20世紀前半に自民族を優れたものとし、自民族を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まる。

• ドイツでは、過激な全体主義（③　　ナチズム　　）が誕生。

　▶みずからとは異なる者を平等の対象とみなさず、暴力によって存在を消去しようとした。

⑴　④　　　 ホルクハイマー 　　　や⑤　　アドルノ　　（ドイツの哲学者。アメリカに亡命）

• 全体主義（ナチズム）の原因が行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調。

　▶ 特定の利益や目的のために使われる理性を「⑥　　 道具的理性 　　」として強く批判。

⑵　⑦　　 アーレント 　　（ドイツの哲学者。アメリカに亡命）

• ナチスの凶悪な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって担われた（⑧　　 悪の陳腐さ 　　）

と考えた。

　▶ 多様な人々が対話できる⑨　　　公共的な空間　　　が必要だと考えた。

⑶　⑩　　 ハーバマス 　　（ドイツの哲学者）

• 他者と理性的に対話を交わし合うこと（⑪　　 対話的理性 　　）ができる公共的な空間を再構築しようとした。

⑷　⑫　　ロールズ　　（アメリカの政治哲学者）

• 各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られているために、社会の不正義が生じると考えた。

　▶ 自分の置かれた立場を知ることができないように⑬　　　無知のベール　　　をかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、⑭　　　正義の二原理　　　を提唱した。

部分サンプル

⑸　⑮　　セン　　（インドの経済学者）

• 現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという概念

（⑯　　　 ケイパビリティ 　　　）を提起。

　▶それらを満たし高めることで社会全体が幸福になっていくと唱える。

●課題と向き合うために

• 先人たちの物事に対する視点や方法をヒントに今日の社会の課題をとらえ、解決方法を考える。

▼確認（教科書の該当箇所をマーカーしよう）

Q：よりよい社会の形成に向けロールズとセンは何が重要と考えたか、それぞれ本文から探そう。

■学習課題（120字程度でまとめよう）

Q：私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

**（例）社会の格差を是正するには、すべての人が適切な機会や支援を受けられるしくみが必要である。例えば、障がいのある人や経済的に厳しい環境にある人が、自分の能力を発揮できるような教育や福祉の制度を整えることが大切だ。また、多様な立場の人々が意見を交わし、互いの状況を理解することで、公正な社会のあり方を考え続けることが求められる。**

◆説明（120字程度でまとめよう）

Q：発展途上国にはどのような支援が適切か、ケイパビリティの視点を踏まえて説明しよう。

**（例）発展途上国への支援では、人々が自身の可能性を広げ、自立した生活を送れるようにすることが重要である。そのために、教育機会の提供や医療体制の整備を進め、誰もが学び、健康を維持できる環境を整えることが求められる。また、地域ごとに異なる生活の基盤を強化することで、持続的な発展を促すことができる。**

|  |
| --- |
| ■振り返って自己採点してみよう　(　A：よくできた　B：できた　C：あまりできなかった　) |
| ■分かったこと、感じたことを書いてみよう |